

みやぎ母乳育児をすすめる会

ニュース No.57



2022. 5

目 次

巻 頭 言

みやぎ母乳育児をすすめる会 理事長 青葉 達夫 …… 1

■ これから母乳育児支援を始める医療者への提言

元さかいたけお赤ちゃんこどもクリニック院長 塚 武男 …… 2

■ 総会報告 ……10

■ 役員変更について ……10

■ 2021年度の年間役員名簿 ……10

■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会
2022年 年間予定 ……11

■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会
2021年度 第4回理事・幹事会議事録 ……12

■ NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会
2021年度 第5回理事・幹事会議事録 ……15

■ 「東北母乳の会 in いわて 2022」について ……18

■ 新刊案内 ……20

■ 定例講演会@Zoom ……21

巻 頭 言

みやぎ母乳育児をすすめる会 理事長 青葉 達夫

今年の母乳フォーラムのお題は「産後ケア事業」です。この事業は、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を目的とし、平成から計画され、令和元年12月1日に成育過程にある者及び、その保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な批准に関する法律が施行したことに始まります。今までは妊娠出産したら、いちばんは実母を頼ったり、義母・親族などが育児を支えていましたが、昨今、血縁を頼れない妊娠・出産・子育てが増えてきており、生活している地域で様々な支援をしていこう、母子の孤立を防ごう、というのが目的です。

この事業の実施母体は「市町村」です。時期は母子健康手帳交付の妊娠初期から、産後1年ころまでが目安です。対象者は妊娠・出産・育児に不安を抱えている人、身近に相談する者がいない人、また多胎、若年妊娠、特定妊婦、障碍児や病児を抱える妊産婦や家族など、支援が必要と考えられる人が対象となります。

今まで産院は妊娠出産とその後少し、退院してから母自身で助産所や小児科医などを親族と回って対処していたものが、切れ目のない支援で、母が動きやすくなるというのが趣旨です。そのため、小児科までを含めての1歳くらいまでの包括的な支援ができることとなります。今度の母乳フォーラムでは、開業助産師さんと小児科医師と行政から話を聞きたいと思っています。今に始まったことではないのですが、分娩施設の急激な減少で、赤ちゃんを産むという事が地域できなくなってきました。それこそ事業母体である市町村をまたいでの出産などでは、支援が途切れてしまうこともあります。

NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会では、宮城県の育児シーンを大切にしています。この春、会員の小児科医が産後ケアを始めました。会員である開業助産師さんも、産後ケアに取り組んでいます。まだまだ始まったばかりの施策です。この機会にいろいろ勉強してみましよう。

当会を立ち上げた堺監事も初めは手探りの連続だったそうです。はじめは少しのところから各人が始めて、少しずつ育児支援を立ち上げていきましょう。一步一步です。そして母乳育児支援のNPO法人ですから、この事業においてもどんな形でも母乳育児にかかわっていききたいものです。みなさま今年の母乳フォーラムをご期待ください。

令和4年5月7日

これから母乳育児支援を始める医療者への提言

Advice to health care staffs who wish to start breastfeeding support

元さかいたけお赤ちゃんこどもクリニック院長
堺 武 男

〒980-0011 仙台市青葉区上杉四丁目4-40-301

Tel&Fax : 022-223-1771

e-mail : jyats49@aioros.ocn.ne.jp

key words

breastfeeding, exclusive breastfeeding, breastfeeding support, health care staff

要 旨

母乳は人類発生時から母子の健康と関係を支えてきており、育児の過程には欠かせない物質であり、その重要性は現在も全く変わらない。しかしながら育児を巡る環境は時代と共に著しく変化を続け、特にこの数年は著しい少子化の進行、母親の就労率の上昇などこれまで予想出来なかった時代に突入している。その中で母乳育児を志す母親が母乳育児の継続が困難になる事態も増えている。そのような母子を支えるためには母乳育児を側面から支援する第三者の活動が求められ、その姿勢は多様化する母子の悩みに対応出来ることが必要とされている。母と子とはお互いが毎日変化、発達するものである。一方医療者は自分の専門とする職種によって対象とする母子と接する期間が限られていることが多く、母子の継続する悩みや変化に答え切れないことも多い。そこで母子の多様化した悩みを答えるためには、母乳育児支援を志す医療者は、自分の職種の範囲を超えた医療知識と姿勢を持った「母乳育児支援者」を目指すことが求められていると考える。

1. 母乳育児を支援するための基本姿勢

1) 母乳とは何かを知る

まず母乳は欠点の無い完全食品であると考えられているが、実は様々な課題を抱えている。表1にそれらの課題の幾つかを示す。その課題の一部は人工乳が解決の手段のようにも見える。では人工乳がこれらの課題を本当に解決し、ある程度ではあるが母乳を乗り越えたと言えるのだろうか？母乳育児支援を目指す医療者は、母乳は何物にも優ると単純に信じ込むのではなく、母乳の持つ幾つかの課題をよく理解し、その上で以上の様な疑問については母乳育児の利点を医学的に、かつ情緒的面も含めて母親と家族に説明する必要性がある。

2) 母乳育児の利点を知り、それを伝える有効な方法を考える

では実際問題として母乳育児には、どのような利点があるのだろうか？確かに母乳と母乳育児には限りない利点があると言われている。それらを全て網羅することは出来ないがその内の幾つかを表2にまとめてみる。ここで注意すべきは、母乳の利点を人工乳と比較してその利点を強調することは問題ないが、人工乳は母乳と比較して劣っているというような表現は避けることである。世の中の全て母子が完全母乳で育っているのではなく、混合栄養、人工栄養で育児をしっかりと行っている母親は多々おられる。その母親も母乳育児の母親と同様の多くの悩みを抱えながら育児を行っている。それらの混合栄養、人工乳栄養の母子を傷つけるような言動は慎まなければならない。母乳育児支援の目標は全ての母子の育児に対する「やさしさ」を持った支援である。

例えば母子間の精神的つながりについては母乳育児が有利な側面があると一般的には言われているが、その母子が母乳育児である場合はその側面をある程度強調し、母乳育児の継続を勧め、支援することには問題は無い。しかし、全ての母子を対象とする場合は、基本的には栄養法が母子関係の軽重を規定する決定的な因子ではないことを全ての母子に伝える。

もう一つ重要なことは、表1で示したように母乳が持つ様々な課題について人工乳がそれらを克服し、そのことによって逆に母乳には「欠点」があるとされることである。その時に「でもね、やっぱり母乳は優れていますよ」というような言い訳的な、あいまいな母乳推奨にならないことである。何が課題であり、何が解決手段であるかを確実に把握し、その上で母乳育児は母子にとって最もすぐれた方法であり、そのことを根拠を持って説明することが必要である。これは前述の混合栄養、人工乳栄養の母子を傷つけないこととは矛盾しない。

表1. 母乳育児の持つ課題

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. V.Kの低値による「乳児V.K欠乏性出血症」の発生 →V.Kの服用で解決 2. 新生児低血糖→適切な補足が必要 3. 低出生体重児の栄養→強化母乳を使用 4. V.Dの低値→サプリメントの補充 人工乳児はOK？ 5. 鉄分の低値→鉄剤の服用、離乳食の工夫 人工乳児はOK？ 6. サイトメガロ感染（先天性、経母乳） 人工乳児はOK？ |
|--|

表2. 母乳の持つ母子双方にもたらす利点

| |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 母乳が児にもたらす栄養・免疫の効果 2. 母子の精神的なつながりへの効果 3. 母子の多くの疾患に対する予防効果（糖尿病、白血病、生活習慣病、その他） 4. 乳児突然死症候群（SIDS）発生の低下 5. その他数限りない利点がある |
|--|

2. 母乳育児の確立と継続を支援する「母乳育児支援者」を目指す

母乳育児にとって重要な課題は二つあり、それは「母乳育児の確立と継続」である。確立は殆どの場合産科施設で行われ、継続は産科を退院し1ヶ月健診後の小児科、保健所等を通じた支援を通じて行われるが、この継続にこそ母子には多くの困難が存在している。しかし、これまでの母乳育

児支援では確立については多々議論されてきたが、継続に対する支援内容はあまり検討されてこなかったと言える。

現在、様々な職種の医療者が母乳育児支援に関わっているが、多くの医療者は自分の専門職域内での母子に接する期間とその範囲での支援に留まらざるを得ないのが現実である。例えば助産師は産科入院中、1ヶ月健診までであり、それ以降は母子に関わる機会がほとんどなく、母乳育児支援もその期間に限られることが多い。しかし母子は、医療者の職種とは関係なく時を重ねていくのであり、その過程で多様な悩みや不安を持つようになる。母乳育児支援を目指す医療者はそれらの悩みに答え得る医学的知識と、悩みを共有しながら支援する姿勢が必要である。その為には胎児期、新生児期、乳児期早期・後期の初乳から卒乳に至るまでの母乳育児の確立と継続に関する疑問、悩み、更には育児一般に対応可能な、職種の持つ時間的な枠を超えての「母乳育児支援者」という存在を目標にすべきであると考えられる。そのことによって継続した支援が可能となる。

3. 母乳育児に伴う様々な問題点と支援者の基本的姿勢

1) 何でも母乳責任論

母乳育児に限らず育児には多くの悩みが伴うが、特に母乳育児継続中にはその問題をもたらした原因は母乳そのものとする母乳育児に否定的な「何でも母乳責任論」がまかり通っていることを否定出来ない。

表3にその一部を示すが、表に示した以外にもその原因が母乳にあるとされることは枚挙に暇がないが、それらのほとんどは医学的根拠がゼロである。しかしながらネットなどを通じてこれらの誤った情報が過剰に流され、それに接した母親が悩んでいる現状がある。また、それらの情報を鵜呑みにしたまま流布しようとする医療者が存在することも事実である。当然であるが、医療者には医学的に多くの情報について正確な理解と知識を提供する責務が存在する。

表3. 母乳が原因とされている幾つかの問題（何でも母乳責任論）

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 体重が増えない 2. 母乳の回数が多いから離乳食を食べない 3. アレルギーが多い 4. 虫菌になりやすい 5. 長期の授乳は児の自立心がなくなる 6. その他 |
|--|

2) 寄り添う支援とは

母乳育児支援者が目指すのは母親と家族の持つ悩みを共有しながらの、母子に寄り添う姿勢であると考えている。ちなみに「寄り添う」という言葉はよく引用されるが筆者は寄り添うという行為、あるいは意思是「自分が他人に『寄り添っている』と思っているうちは、実は寄り添ってはならず、寄り添われている側の方が『私は寄り添われている』と感じた時に始めて自分の行

為、意思是寄り添っていることになる」と考えている。その意味では寄り添うとは無自覚、無償の行為であるのだろう。そのような姿勢での支援を目標としたいものである。

3) 医療者の一言の重さを認識する

医療者が発する言葉はそれが医療者であるがゆえに周囲からは重く受け止められ、意図しなくとも結果的に相手を傷つける場合があることを認識しておく必要がある。例えば、母乳育児中に児の体重がなかなか増えない児の母親に、「お母さんの母乳不足かな？」と授乳回数、授乳方法などを母親と共に検討することなく簡単に告げてしまったり、離乳食が進まずに悩んでいる母親に「母乳の回数多すぎるかな？」などと伝える時である。このように一見単純な一言であってもそれが医療者によって指摘されると、母親は自分が間違っていたと自分を責めることが多い。

更に、このような時に医療者が母子に接する時の姿勢は「教えよう、指導しよう」という教育的かつ指導的立場となり上から目線になりがちである。このような場面で重要なことの一つは、授乳、哺乳の方法なども含めた母子の置かれている状態を把握し、母親の持っている育児への思いを丁寧に聞き、その思いに対し共感性を持つことである。共感することで母子の抱えている全ての問題点を理解出来るわけではないが、ある程度までは医療者が共有出来ると考えている。その上で技術的なことは技術的に、医学的知識でアドバイス出来ることがあれば、それを一方的ではなく相談する形で伝えていくことが肝要である。

4) one pointだけで母子の状態を決めつけない

また、これらの母子の悩みに接する際に念頭に置くべきことは、繰り返しになるが母子はどちらも時間と共に変化するものであり、特に児は常に発達し発育しているという事実である。従って、その児の状態をある時点でのone pointだけで決して評価しないことが大原則になる。例えば体重を測定した時点でその体重が標準よりも少なめだから即低栄養であり、その原因は母乳不足であるなどと判断はしない。あるいは離乳食をあまり食べない児に対してもその時点で離乳食嫌いであり、その原因は母乳の回数が多いためであると即決めつけない。何らかの問題点があったとしても、その時点の状況のみで直ちに結論を出すことは先入観によって、その時の母子の状況決めつけることになり、避けるべきである。先月までほとんど食べなかった離乳食をその翌月には母乳育児を継続したままでよく食べるというようなことは多々経験することである。勿論、体重減少が著しい等の緊急性を要する場合はその限りではないことは言を待たない。

4. 母乳育児上の具体転な問題点を考える

以上の様に母子はその発育の過程で様々な問題に直面する。その中で医療者が相談される頻度の比較的多い体重と鉄欠乏性貧血について考えてみる。

1) 新生児期から乳児期の児の体重の変化

育児中の家族にとって児の発育について最も気にかかるのは体重変化である。しかしながら、児の成長過程では体重だけが問題なのではなく、発達、愛着形成など観察すべき課題は多く、体重のみを重視するような乳児健診を筆者は推奨しないが、それを踏まえた上でここでは家族が最

も気に掛ける項目として体重の変化を取り上げて考察する。

i) 新生児期の児の体重変化

新生児期の児の体重変化には3つのパターンがあると考えられる。

- ① 出生直後から体重減少が殆どなく増加するタイプ
- ② 一週間ほどの体重減少後増加するタイプ、最も多いパターン
- ③ 体重減少がゆっくり続き、生後2週間目頃より増加に転ずるタイプ、の3つである。

ここで特に問題にされるのは③のタイプである¹⁾。このタイプの多くは2週間健診で人工乳の補足を勧められるが、補足せずに母乳のみでその経過を見ると生後2週目頃より体重増加が始まり、1-2ヶ月では一日40g以上の増加がみられることが多く、母乳育児の継続は可能である(図1)。この経過観察の前提として排尿、排便がしっかりしていること、肌つやもよく機嫌もよいことなど一般状態に問題がないことは当然である。このような経過を取る理由として、哺乳の不規則さ(この時期多くの乳児は不規則ではあるが)、母乳分泌がやや不十分であることなどが考えられる。この③のタイプの様な児に接した時は人工乳の補足はせずに1週後の診察で体重増加が認められれば、そのまま母乳を継続することが可能である。

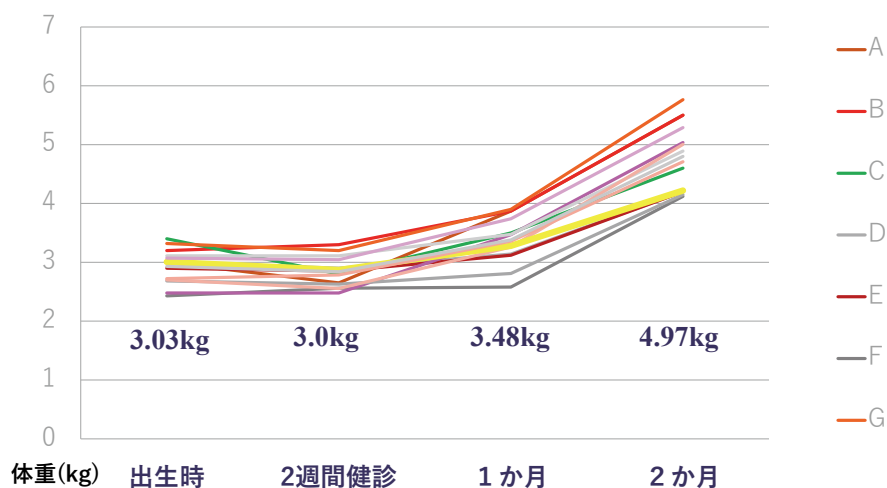


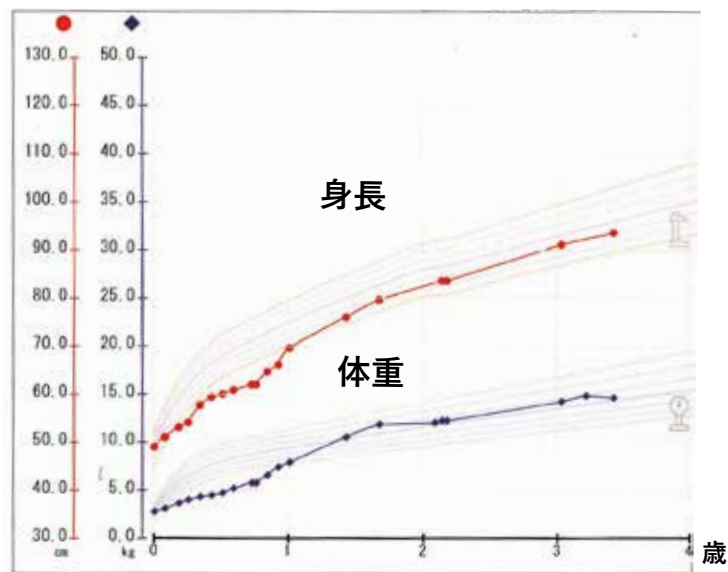
図1. 出生後2週目くらいまで体重減少が続いた児に対し、人工乳補足は行わず、母乳のみで経過観察を行った体重の推移。2週後より体重増加に転じ、1-2ヶ月に増加が著しくなっている

ii) 3-5ヶ月に体重、身長伸びが滞るタイプ

図2は在胎38週5日、出生体重2,742g、身長49cmで出生したAGAの男児で、完全母乳で育っている。3ヶ月頃から身長・体重の伸びが停滞し始め来院した。発達、筋緊張などは全く問題なく母乳分泌もよく哺乳力も良好である。実はこのような経過を取る児は結構多く、経過を見ていくと10ヶ月頃から身長・体重は増加に転じ、正常化することが多く発達は正常である。これらの母子への対処法としては、家族にはこのような経過を取る児は決して少なくなく、将来の発達と発育にはほとんど問題ないことを説明し了解して頂く。その上で母親が母乳育児の継続を望むのであれば人工乳は補足せず、離乳食を5ヶ月から開始する。多くの場合離

乳食はよく食べてくれるがそれが即体重増加にはつながらない。家族には体重は10ヶ月頃から増え始めることを伝え、焦りと不安の解消に努める。筆者はこのようなお子さんは最低月1回の診察を行い、経過をみながらアドバイスするように努めているが、その結果は図2に示すような経過であり、予想通り体重は10ヶ月頃から増え始め、身長はそれを追いかけるように伸びていき、3歳の時点では発達発育には全く問題はなく経過観察外来を卒業出来ている。ここで人工乳の補足をすぐに行うことも選択の一つではあるが、それまでの母親の母乳育児が適切でなかったと告げることもなり、母親の育児への自信喪失につながる可能性もある。その意味で母乳を継続しながら母乳と離乳食で経過を見る方法を推奨している。

ちなみにこの母親は3年後に弟を出産したが、兄と全く同じ経過を取り「お兄ちゃんと同じですね」と母親は自信を持って第二子の育児を行っている。



38w 5d 2742g、49cm 完全母乳

図2. 3ヶ月頃から身長・体重が停滞し、乳児期後半から回復するタイプのお子さんの成長曲線。10ヶ月頃から体重増加を示し、その後身長も伸びてくる。

iii) SGAの児の経過について

またSGAの児にも注意が必要である。SGA児は出生時に機会を見て身長・体重の増加がAGA児に比べて少しゆっくりであり、特に将来的に低身長となる可能性もあることを不安を与えないことに注意しながら説明しておく。実はこれらのことを認識していない小児科医は結構多く、特に周産期医療に関わった経験の無い小児科医に多い様である。最近筆者の所に来院した児は、在胎39週0日、体重2,108g、身長45cmの典型的なSGAで出生した女児であるが、体重増加不良のみを指摘されていた。8ヶ月の時点で児の発達は問題なく、離乳食もよく食べていたが突然経管栄養を勧められ、驚き、かつ納得もいかず来院した。来院時にこの児の身長・体重の経過はSGAに特有のものであることを説明し、体重も重要であるが問題は身長の伸びであることを説明し、1ヶ月毎に経過観察することとした。その間発達その他に問題ないこと

を確認し東北大学小児科内分泌外来に紹介、2歳時からGH治療が開始された。身長・体重の増えがゆっくりなお子さんに接した時は、SGAかAGAかなど出生時の状況を確認することは当然であるが、その後の経過についても様々な経過を取るお子さんがいることを認識しながら対応し、経過を観察することが必要である。

2) 乳児期後半の鉄欠乏性貧血について

乳児は出生後から1歳までに2回の貧血を経験する。最初は胎児期の低酸素血症の環境下では多く産生されていた造血ホルモンであるエリスロポエチンが、出生後の高酸素血症下では産生が急速に低下し、それによる貧血状態となる。生後2-3ヶ月でヘモグロビン (Hb) 8g/dL程度まで低下することが多い。この時の貧血は正球性である。これを乳児の2回ある貧血の最初のものであることから「早期貧血」と呼んでいる。この貧血は多くの場合4-5ヶ月までには自然に正常化するが、その後、妊娠末期に母親からもらった鉄分が枯渇することを主因とする「鉄欠乏性貧血」が生後6ヶ月頃より顕著になる。この時の貧血は小球性貧血であり、赤血球数は増えるがHbの低下と平均赤血球容積 (MCV) が小さくなる。

鉄欠乏は単に貧血となるだけではなく、神経発達にも影響するため注意を要する。筆者は8-9月定期乳児健診で貧血の検査を行っているが結果は表4に示す通りであり、特に母乳児での貧血の頻度が高くなっている (未発表データ)。これまで母乳は鉄の吸収率が高いことから母乳児は人工乳児に比して鉄欠乏性貧血は少ないと言われていたが、実際に調べるとかなり多いことが分かる。筆者のこの結果はこれまでの文献ともほぼ同様の結果であり²⁾、一般的な傾向と思われる慎重な対応が求められる。

表4. 栄養法と鉄欠乏性貧血の頻度 (自験例)

| |
|--|
| 対象：8-9月健診の乳児2208例 (2013.1-2021.12) |
| 離乳食+母乳：1513例 (68.5%)、混合栄養：396例 (18%)、人工乳：299例 (13.5%) |
| 1. Hb \leq 11.0：287例 (13%) |
| 2. 離乳食+母乳：267例 (母乳児の17.6%)、混合栄養18例 (混合栄養児の4.5%) 人工乳児2例 |
| 3. Hb \leq 10.0：118名 (5.3%) |
| 離乳食+母乳114例 (母乳児の7.5%)、混合栄養4例 (混合栄養児の1%) |

母乳児に鉄欠乏性貧血が多い原因は、乳児期後期には母乳中の鉄分だけでは必要量に対し不足することによると考えられている。既に知られている様に母親の鉄分摂取量は母乳中の鉄分量には影響せず、母乳中の鉄含有量は常に一定である。従って特に乳児期後半の児には離乳食を通じての鉄分摂取を増やす工夫が必要である。とは言え離乳食の摂取量には個人差があり、その内容を工夫しても思い通りには食べてくれないことが多い。そこに母親に離乳食のメニューの工夫を勧めても母親は困ることが多い。筆者はその様な時は鉄なべや鉄玉を用いての調理を勧めている。ちなみに、ひじきの煮物では鉄なべとステンレス鍋では鉄なべでの調理が10倍近い鉄含量となる。母親に調理の悩みを与えるよりも、より鉄なべの使用などは簡易さとやさしさを兼ね備えた方法として推奨出来ると思われる (表5)。

表5. ひじきの煮物を鉄なべとステンレス鍋で調理した際の鉄分の違い（文献3より引用）

| |
|-------------------------------|
| ひじき20g（鉄なべ、乾燥、ゆで）：鉄分0.54mg |
| ひじき20g（ステンレス鍋、乾燥、ゆで）：鉄分0.06mg |

5. 最後に：母乳育児支援は母乳育児を学ぶ過程である

以上、新たに母乳育児支援を始めようとする医療者へのアドバイスを述べた。母乳育児のみならず、育児を巡る環境はこの数年大きな変化をもたらしている。その大きな原因は極度の少子化の進行と、育児世代の女性の就業率の上昇にあると考えられる。その様な環境の中で育児を巡る母親の悩みも多様化しており、単に母乳の良さを語り、完全母乳を勧めるだけでは、その悩み、迷いに答えることは出来ない。正確な知識を背景にしながら多様な悩みに共感する、寄り添う姿勢が重要である（「寄り添う」の意味については前述した）。この悩みに共感することは、実は母乳育児とは何であるかを学ぶ過程でもある。つまり相手の悩みに対する答えを自分が求める過程は母乳育児のみならず、育児という多様性を持つ営みを学ぶ過程であり、支援者としての自分を育て、磨き上げる過程でもある。これらのことを認識しながら母子の疑問、悩みを共有、支援する過程を大切にしながら学び続けて頂きたい。以上のことを踏まえ、母乳育児を暖かく支える多くの母乳育児支援者が育つことを祈っている。

文 献

- 1) 安心の母乳育児. 日本母乳の会. P23, 2010
- 2) Isomura H et al. Type of milk feeding affects hematological parameters and serum lipid profile in Japanese infants. *Pediatr Int.* 58 : 807–13, 2011.
- 3) 授乳・離乳の支援ガイド（2019年改訂版）実践の手引き. 母子衛生研究会. p99. 2020.

総 会 報 告

2021年10月16日(土)、みやぎ母乳育児をすすめる会通常総会が開催され、すべての議案は承認されました。皆様のご協力、ありがとうございました。

役員変更について

2021年の8月31日で理事の伊藤美佳さん、梅原あゆみさん、監事の高橋純子さんが任期満了、退任されました。今までありがとうございました。

理事の上原茂樹さんが任期満了、監事となりました。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

2021年度の年間役員名簿

2021年9月1日より2022年8月31日まで

| | |
|-------|---|
| 理 事 長 | 青葉 達夫 |
| 副理事長 | 大槻 健郎、中村 理恵 |
| 理 事 | 明城 光三、飯田 富己、大友 浩一、小原 幸恵、加藤美江子、菊池 啓子 熊谷 賀代、佐藤 祥子、鳴海 僚彦、藤本久美子、洞口 信子、安井 友春 山本 優子 |
| 監 事 | 堺 武男、上原 茂樹 |
| 幹 事 | 渡邊佐登美、相澤加奈子、千葉 祥子、高橋 有希、加藤 里沙、佐々木 京 小林 久美、小寺 由里 |

2022年 みやぎ母乳育児をすすめる会 予定

* 詳細は変わることがあります。HPなどをご確認ください。

| | イベント | のびすく相談 | | 理事 幹事会 |
|-----|-----------------------------------|--------|-----|-----------|
| | | 仙 台 | 泉中央 | |
| 1月 | ニュース発行 「やさしい育児の本」出版記念講演会 (30日) | 未定 | 未定 | |
| 2月 | みやぎ版ワークショップ (27日) | 未定 | 未定 | 7日 (月) |
| 3月 | | 未定 | 未定 | |
| 4月 | | 未定 | 未定 | 4日 (月) |
| 5月 | ニュース発行 | 未定 | 未定 | |
| 6月 | 東北母乳の会 (4日) 定例会 (オンライン) | 未定 | 未定 | 7日 (月) |
| 7月 | | 未定 | 未定 | |
| 8月 | | 未定 | 未定 | 1日 (月) |
| 9月 | ニュース発行 | 未定 | 未定 | 5日 (月) |
| 10月 | 総会・母乳フォーラム in みやぎ 2022 | 未定 | 未定 | 3日 (月) |
| 11月 | | 未定 | 未定 | |
| 12月 | | 未定 | 未定 | 5日 (月) |

2021年度 第4回 理事・幹事会議事録

日 時：2022年2月7日(月) 18:30～

参加者：横江、中村、加藤、大友、堺、飯田、安井、洞口、藤本、青葉 10名

司 会：青葉

記 録：大友

議 題

出版記念講演会の報告、参加者へニュース原稿依頼

参加者：講師・スタッフ含め43名

事務局から反省：当日の詳細のお知らせについて。前回の講演会の時、参加URLのお知らせをPeatixのメールで送ったら、当日参加が出来なかったという意見があった。そのため前々日にメールで参加URLを送ったが、Peatix経由のメールで詳細が送られると思っていたので視聴URLなどがわからず、視聴ができないとの連絡が開始30分後くらいにあった。

→次回以降はPeatix経由、BCCの一斉メールの両方で送る。

- ・ニュース原稿執筆者：青葉
- ・講演等の動画対応：大友

HPへログインした方がまずは視聴できるように、会員ページにYouTubeへのリンクを貼る。検索で探せば見られないことはないが、なるべく会員特典として公開したい。

ワークショップ(2022/02/27)について

現時点で参加申込みが現在9名。コロナ禍（オミクロン株）で各病院が大変なこともあり延期とする。

定例会について

日 時：5月27日(金)/28日(土)/29日(日)のいずれかで、時間帯ともども、アンケートを取ってみる。

プログラム・講演会：

講 師：中村副理事長

内 容：最近の育児事情について

アーカイブ配信について：OK

ニュース原稿執筆者：未定

次回ニュース(5月、データでの発行)の内容、原稿執筆者、締切り、提出方法

巻頭言；青葉

内容1 堺：母乳哺育学会での発表原稿 昨年の学会のテーマ

「これから母乳育児支援をはじめめる医療者への提言」

内容2 6月4日の東北母乳の会 岩手(村木さん)の紹介と参加の呼びかけ

定例会の案内

発行スケジュール：5月7日原稿締切り 5月中の発行

フォーラムのテーマ、講師、開催日時について

産後ケア事業がクローズアップされている。おりしも理事の鳴海先生が小児科医として産後ケア事業を立ち上げるとのこと。そこで秋のフォーラムでは、今まで産後ケアを頑張ってきた、小野さん、伊藤さんらと座談会をしてみたいと思っている。出産した施設から地域に褥婦さんが帰っていく時、産後ケアで関わっている中で見えてきた褥婦さんや家族のニーズ、問題点、切れ目のない支援をしていくために産科施設ではどんな関わりが効果的なのか、などということを考えるきっかけにしたい。

講師候補：鳴海僚彦先生、伊藤朋子さん、小野由起子さん

日 時：2022年10月15日(土)か29日(土)講師都合で。時間もご相談

開催方法：オンライン(可能であればハイブリッド)

ホームページ改訂について (大友)

- ・ホームページについて、見られない状態になった。原因としてはサーバー、OSのバージョンアップが進んだことで、セキュリティ表示が出て、危険なホームページとの表記がなされるようになった。その為、急遽SSL化し対応をした。(いつかはやらなければならない対応であったが緊急だったため、事後報告となった)
- ・ホームページ上での販売について説明
ホームページ上から本を買っていただける場合、一般の方が買う方が多い。そのため一冊1,200円という表記で統一している。
- ・賛助会員なのに事務局から1,200円と言ってしまった事例があるので、会員の方が買う場合、ラジオボタンを付けて、金額をお知らせするなどの対策をとることとする。

本の販売方法、料金等について

HPにて販売開始した。発送手数料を頂くこととした。販売ルートは現在HPだけだが、Amazonでの取り扱いを視野に入れていくか、再検討。

事業部制について

コロナの時代となり従前の集会型のイベントができなくなった。Zoomやウェビナーでの勉強会が主体となり、今後の活動が大きく変わろうとしている。そこで、新たな活動様式を模索していきたい。事業部制にして新たなアイデアをスクラップビルドしていきたい。

他の会だと、広報事業部、学習会事業部、教育研修事業部などと縦割りの活動だが、会員200名以下の小規模な法人なので、まずは 1) ワークショップ事業 2) 月例会事業 3) 母乳フォーラム事業 という格好でスタートしたいと考えている。

堺先生より、会が大きくないので、みんなが助け合う仕事にしたい、「それは私の仕事じゃないから・・・」という風潮が出ないようにお願いしたいとの助言を受けた。

ある程度は縦割り、そして時々みんなで助け合う、というような活動に行きたい。アフターコロナではやはり対面の会も（完全なるWEBでなくハイブリッドで）ということは念頭に活動していきたい。Zoomが出来るようになり、出向かなくなったメリットも大きい。

青葉：コロナ禍で、Zoom一つとっても手探りの、難しい状況。より良い運営方法について模索している。皆様ご協力よろしく願いいたします。

2021年度 第5回 理事・幹事会議事録

日 時：2022年4月4日(月) 18:30~19:30

参加者：青葉、中村、堺、洞口、飯田、藤本、加藤(美)、相澤、佐々木(京)、
山田志枝(オブザーバー参加)、熊谷 11名

司 会：青葉

記 録：佐々木・熊谷

議題

定例会について (担当：洞口)

開催日時：5月29日(日) 11時~12時

場 所：青葉子どもと親の歯科医院からZoom配信

演 者：中村

司 会：加藤(美)

挨 拶：青葉

配 信：青葉、大友、熊谷

ニュース原稿：佐々木(京)

広報：チラシ作成：大友(済み)

宮城県助産師会→洞口、加藤

東北母乳の会→熊谷

その他→各自お願いします。

東北母乳の会について (担当：事務局、詳細は別紙参照)

メインテーマ「どのように母子を支えていますか？」

コロナ禍で、今までとは同じような支援ができないなか、施設や地域、多職種の取り組みを知る。

開催日時：6月4日(土) @岩手県 (ハイブリッド) 13:00~16:30

シンポジウム「どのように母子を支えていますか？現在の取り組みを教えてください」

各県担当あり、宮城の演題：産科の話を中心に 8分

担 当：藤本

東北母乳の会への参加者：堺 (基調講演演者)、青葉 (本の販売も)

ニュース原稿：青葉

ニュース(web)担当、締切確認

巻頭言：青葉

内容1 堺：母乳哺育学会での発表原稿 昨年の学会のテーマ

「これから母乳育児支援をはじめる医療者への提言」

内容2 6/4の東北母乳の会 岩手（村木さん）の紹介と参加の呼びかけ：事務局

定例会の案内：事務局

本の広告：事務局

事務局から今年度の予定：事務局

事務局からお願い：事務局

発行スケジュール：5月7日原稿締切り 5月中の発行

事業部制について (青葉)

現行→今後

会 計：飯田、千葉

監 査：堺、上原

定例会：今年度は洞口

フォーラム：

ワークショップ：

のびすく：山本

ホームページ、チラシデザイン、ニュース編集：宮城文化協会

動画撮影、You Tube管理：大友

総 務：熊谷

渉 外：熊谷、青葉

本の受注・発送：熊谷

NPO室への報告書作成、提出：熊谷

市税・県税関係書類作成、提出：熊谷→飯田・千葉

会員管理：熊谷

ニュース原稿校正：熊谷→（ ）青葉から依頼予定

総会資料作成：熊谷

Peatixページ作成、連絡：熊谷

みやぎ母乳育児をすすめる会理事・幹事会ML管理：熊谷

みやぎ母乳育児をすすめる会会員ML管理：熊谷

理事・幹事会議案書・議事録作成：熊谷、大友、加藤(里)、佐々木、青葉

今後まとめ役を持ち回りでできるようにマニュアル作成する

その他

・本について

県庁記者クラブに投げ込み→反応待っている状況。

フォーラム近づいたら再度広報する。現在売れたのは200冊ほど。

・事業のマニュアル作成について

フォーラム→加藤(美)が作成、確認必要な件は熊谷にも。

定例会→洞口

ワークショップ→佐藤(梅)に加藤から作成依頼

*提案：現在Zoomの講演は無料だが、そろそろ有料化しても良いのでは？→要検討

・フォーラムについての意見

青葉：内容は「産後ケア」だが、新年度になり担当者が変わった。自治体によってサービスが全く異なっている。

堺：まずは「産後ケアとは何？」というところでもいいのでは？産後に必要とされる支援について知りたいと思う。各施設では何をやっているのか。

青葉：とも子助産院の伊藤朋子さんからは「行政はどう考えているのか聞いてみたい。何を施設に望んでいるのか知りたい」という意見があった。スペルマン病院は産後ケアを止めた。

藤本：スタッフ内にはやりたい人もいたと聞いた。実際のところ、手間がかかることであるが、行政は実際にやっている内容を知らないのでは。

・Zoom配信についてもマニュアルがあると良いのでは。→作成する方向で。(担当：大友?)

次の理事会 6月6日(月) 18:30～

「東北母乳の会 in いわて 2022」について

| | |
|------|-----------------------------------|
| 開催日 | 2022年（令和4年）6月4日（土）13：00～ |
| 開催方法 | ハイブリッド形式での開催 Zoom ウェビナーを使用 |
| 会場 | アイーナを予定しています |
| 参加料 | 医療関係者、保育関係者 2,000円 学生など 1,000円 |

メインテーマ「どのように母子を支えていますか？」

コロナ禍で、今までとは同じような支援ができないなか、施設や地域、多職種の取り組みを知る。

<基調講演>

1. 堺 武男 先生 小児科医 40分

1949年、宮城県石巻市生まれ。東北大学医学部卒。仙台市立病院勤務、東北大学医学部小児科講師、東北大学附属病院周産母子センター助教授、宮城県立こども病院副院長等を経て、2008年9月「さかいたけお・赤ちゃんこどもクリニック」を開業。

現在は、なごみこどもクリニックで毎週金曜日午後診察をするほか、難病のお子さんご家族支援、ダウン症のお子さんご家族支援、母乳育児支援などで活動中。

2. 中川信子 さん 言語聴覚士 40分

中川信子さん…子どもの発達支援を考えるSTの会代表。

そらとも広場 <http://www.soratomo.jp/>

子どもの発達支援を考えるSTの会 <https://www.kodomost.jp/>

1948年（昭和23年）東京生まれ。「子どものこころとことばの育ち」など多くの著書。「0～4歳わが子の発達にあわせた語りかけ育児」、「おっぱいと離乳食の新常識 かしこい育児はおくちからはじまる」など多数の本を監修。

<東北6県の分娩施設アンケート報告>

2020年、山形市で2日間開催予定だった母乳育児シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、2021年に延期となり、オンラインで1日の開催となりました。

東北開催なので、東北の分娩施設の状況を報告したいと、2020年に分娩施設を対象に行ったアンケートですが、時間の都合上、発表の場がなくなりました。

東北母乳の会で発表を！山形の皆さま、ぜひお願いいたします 15分

<シンポジウム>

「どのように母子を支えていますか？現在の取り組みを教えてください」

様々な立場のお話を伺いたいため、各県に職種を振り分けました。各県の皆さま、ご協力をお願いいたします。

- 青森県 保育園・幼稚園の話を中心に
- 秋田県 小児科の話を中心に
- 山形県 県や市の保健師の話を中心に
- 福島県 助産師会の話を中心に
- 宮城県 産科の話を中心に
- 岩手県 BFH施設の取り組みを 黒川産婦人科医院、県立磐井病院

発表時間は、各8分です。発表後、質疑応答、セッション、質問はチャットで受け付けます。

プログラム終盤で、来年度の開催県である、あおもり母乳の会から挨拶をお願いします。

終了予定時刻は16：30ごろです。

毎回開催されている、懇親会は、コロナ禍のため現段階では予想できないので開催いたしません。温泉宿泊の開催もしない予定です。

ポスターの作成が終了しましたら、改めてお知らせいたします。各県の発表の皆様のお名前は、ポスターには載せずに作成したいと思います。発表者が決まりましたら、4月末までに、いわて母乳の会事務局の村木までお知らせください。iwate.bonyu.nokai@gmail.com

PowerPointなどの締め切りは改めてお知らせいたします。東北母乳の会 in いわて2022 の参加お申し込み等も、また改めてお知らせいたします。

育児を支援するすべての方へ、敬意と応援をこめて

「やさしい育児の本」が出来ました！



日頃の支援に役立つ基本的な内容について、宮城県内で母子に寄り添う小児科医・産科医・歯科医師・薬剤師・助産師が全37項目書き下ろしました。ご購入を希望される方は、お名前、ご住所、電話番号、必要部数をメールまたはFAXにてご連絡下さい。発送費用・手数料、代金振込手数料はご負担をお願いします。仕様/A5版 全カラー印刷 141p 定価 1,200円（税込）、みやぎ母乳育児をすすめる会会員は 1,000円（税込）

<内容>

第1章 赤ちゃんについて

赤ちゃんの睡眠パターンの変化、黄疸、哺乳行動と哺乳量、初乳と成乳、体重—DOHaD（Developmental Origins of Health and Disease）を含めて、運動発達の推移、聴力と言葉の発達、便の変化、そして便秘、皮膚の乾燥、目やに

第2章 母乳育児と赤ちゃんの病気について

母乳による母子の病気の予防効果、
ビタミンK2（V.K2）シロップと「乳児ビタミンK欠乏性出血症」
母乳とビタミンD（V.D）、母乳育児と赤ちゃんの鉄欠乏性貧血、授乳中のお酒やコーヒー、
家族の喫煙と赤ちゃんの受動喫煙による害、赤ちゃんの食物アレルギー、
赤ちゃんのむし歯、赤ちゃんの歯並び・噛み合わせと摂食・嚥下

第3章 育児と育児困難について

乳幼児虐待の現状、育児困難のお母さんをどのように支援するか
産後のお母さんのメンタルアセスメント、メンタルヘルスとそれへの対応
医療者はどのようにお母さんに対応するか（事例検討から）
産後のお母さんと行政の関わり、父親の育児参加／女親の立場から／男親の立場から

第4章 お母さんへのアドバイス

仕事もしているお母さんを取り巻く状況、仕事をしているお母さんへ、
職場復帰を考えているお母さんへ、離乳食、卒乳、母乳と薬
母乳育児を選択しなかったお母さんへの支援
早産・低出生体重児と母乳育児支援、妊娠中の乳房管理—産科的視点から

特定非営利活動法人 みやぎ母乳育児をすすめる会

事務局 宮城県仙台市青葉区国分町 2-3-11

東北公済病院 母子センター

E-mail : m.bonyu@gmail.com

みやぎ母乳育児をすすめる会 書籍発行部 E-mail : m.bonyu.book@gmail.com

株式会社 宮城文化協会内発送事務局 Fax: 022-273-2590

みやぎ母乳育児をすすめる会
定例講演会 @Zoom

『母親に必要な 母乳育児支援とは』

～最近の育児環境から支援を考える～

講師

みやぎ母乳育児をすすめる会 副理事長 小児科医

中村 理恵



コロナ禍のなか、母親を取り巻く状況は大きく変わっています。
育児環境の変化もあわせて正しい情報を得ることは大切です。
母親・家族をふくめて必要な支援はなにか考えていきましょう。

- *先着100名様まで。お申し込み多数の場合はYouTubeへのご案内をさせて頂く予定です。
- *アーカイブ配信については、後日準備が整い次第、お申込みの方にご連絡を差し上げます。
- *参加希望の方はお申込みをお願いします。(当会あてのメールでも受付いたします)
- *申し込み期限：5月26日 23：59まで
- *ご参加申込みの方には、前日までに視聴URL・資料ダウンロードのご案内をメールとPeatixからお送りします。
gmailからの受信もできる設定をお願いいたします。

限定100名

参加費
無料

どなたでも
参加できます

2022

5/29日

11:00-12:00

■ お問い合わせ先：

みやぎ母乳育児をすすめる会事務局
m.bonyu@gmail.com

住所や勤務先、お名前が変わった方、退会を希望される方は事務局までお知らせください。また、当会では情報伝達を確実かつ迅速に行い、経費を削減して皆様へ還元するため、連絡手段やニュースレターのデジタル化を進めております。メールアドレスをお知らせ頂いていない方、メールでのお知らせが届いていない方は、事務局までお知らせください。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡先

事務局：東北公済病院 母子センター

住 所：〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-3-11

E-mail：m.bonyu@gmail.com

特定非営利活動法人 みやぎ母乳育児をすすめる会
理事長:青葉 達夫
事務局:東北公済病院7階 母子センター
電話:022-227-2215(直通) e-mail:m.bonyu@gmail.com